

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年8月31日現在）

今月の重点活動

■水稲 採種ほ場の審査を実施

丹生川採種組合では、水稲の県奨励品種である「ひとめぼれ」「はなの舞」「たかやまもち」「ひだほまれ」「コシヒカリ」の種子を生産し、次年度の種子として県内生産者に供給している。

8月上旬から下旬にかけて、ほ場審査を行い、営農指導員や採種組合役員らの協力のもと、異品種や雑草、病虫害被害等の有無について確認した。

農業普及課では、今後も良質な種子を供給できるよう、適期収穫等の支援を行うとともに、収穫後に発芽試験等の生産物審査を行う。



【ほ場審査の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■夏秋トマト みどりの戦略に向けた栽培暦を検討

飛騨地域では「岐阜県みどりの食料システム推進計画」の達成に向け、飛騨地域農業再生協議会が、『飛騨地域「みどりの戦略」アクションプラン』を策定し取り組むべき推進目標を示している。

目標達成に向けて、農業普及課では、8月27日に、普及指導員、営農指導員等からなる「トマトチーム会議」を開催し、現行のトマト防除体系のリスク評価を行い、リスクの低い化学農薬の選定等について検討した。

また、国が示す2030年並びに2050年の目標達成に向け、堆肥・有機質肥料を活用した施肥設計についても検討を行った。

今後は、飛騨蔬菜出荷組合トマト部会役員とも協議を進め、実行可能な「環境に配慮したトマト栽培暦」の作成を進めていく。



【防除体系・施肥設計を検討】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■メロン 第40回飛騨メロン共進会

8月2日、飛騨メロン生産者の規模拡大及び栽培技術の向上を目的として、第40回飛騨メロン共進会が開催された。本年度は11名の生産者から出品があり、審査員7名により、食味やネットの美しさ、全体のバランス等について審査が行われた。審査委員長からは、「どのメロンも出来がよく審査が大変難しかった」との講評があり、生産者の栽培技術の高さがうかがえた。

農業普及課では、今後もメロンの栽培技術や、環境に配慮した防除体系等について情報を提供するとともに、生産者と協力し、飛騨メロンの評価の維持・向上を目指して支援を行っていく。



【審査の様子】

■ほうれんそう ほうれんそう白斑病研修会及び情報交換会

8月23日、JA ひだ清見野菜集出荷場にて、ほうれんそう白斑病研修会及び情報交換会が開催された。

ほうれんそう白斑病は葉の表面に褐色の斑点を生じ、商品価値を損なう難防除病害で、近年、飛騨管内でも発生が増加している。農業普及課からは白斑病の特徴及び防除について説明をすることで、生産者への本病に対する意識付けを行った。

また、研修会後には意見交換を目的とした情報交換会を実施し、生産者からの品種や防除に関する疑問に対し、最新情報を提供し意見交換した。

ほうれんそう栽培も後半に入るが、農業普及課では、引き続き高品質なほうれんそう出荷のための栽培管理、防除支援を行っていく。



【情報交換会の様子】